ゴールドスミス最初の漢訳小説

沢 本 香 子

ゴールドスミス Oliver Goldsmith の漢訳については、以前、樽本照雄が紹介したことがある。「清末翻訳２題」のなかのひとつが哥徳斯密著「姉妹花」であった（『清末小説から』第19号1990.10.1）。原作は、「ウェイクフィールドの牧師 The Vicar of Wakefield」（1766）だ。

あれから長い時間が経過している。当時は見ることのできなかった関係書も、のちにいくらかは目にすることができた。樽本の文章を補充訂正することからはじめる。

1　ゴールドスミスについて

孫毓修の文章

ゴールドスミスについて紹介する漢語資料がある。樽本は、以下のように説明した。

「蒋瑞藻編『小説考証附続編拾遺』（上海・商務印書館1919.9/1935.5）だ。「姉妹花」に関する記述を、「留庵叢談」（孫毓修著？）から収録している（446頁）」

孫毓修の文章は、もともとが「英国十七世紀間之小説家」であることがわかった。

孫の該文は、最初、『小説月報』第４巻第２号（1913.5.25）に掲載された。のち、『欧美小説叢談』（上海・商務印書館1916.12　文藝叢刻甲集）*[1]にまとめられる。さらに、蒋瑞藻によって『小説考証附続編拾遺』に収録されたという経緯になる。

次のようにもある。

「『教育世界』を見ていないので、これは推測なのだが、蒋瑞藻編『小説考証附

『欧美小説叢談』

続編拾遺』に収録された「留庵叢談」は、『教育世界』第89号の附録「葛徳斯密事略」に材料を得ているのかもしれない」

『教育世界』第89号が1904年の発行で、孫毓修の文章初出が1913年である。時間的にみて、上のような推測も成り立つ。その可能性はあると考えたのだろう。しかし、それは間違いだった。

『教育世界』の「附録」ではゴールドスミスを葛徳斯密と正しく音訳する。また、その生年を1728年と書く。だが、孫毓修は、文中で古徳密斯と表記して誤っているし、生年は1727年としている。両者は、あきらかに異なる。孫毓修のゴールドスミス略伝は、独自に調査して書かれたものだと判断する。

日本語訳との関係

「英語から、直接、中国語訳がされたのかどうかは不明である。「ウェイクフィールドの牧師」は、複数の日本語訳があるそうだ。中国語原文が読めるようになれば、参考にすることができるかもしれない」

「姉妹花」が上海で公表される前に、日本で浅野和三郎訳『ヴィカー物語』(大日本図書株式会社1903.7.30) が発行されている。当時、日本語経由で漢訳される外

浅野和三郎訳『ヴィカー物語』

植木貞次郎訳『園之咲分』

国小説も多かった。この浅野訳本が漢訳に影響をあたえてもおかしくはない。そう考えて訳文を照らし合わせてみた。結局のところ、両者には影響関係はないことが判明した。

例をあげよう。浅野訳には「通夜野」がでてくる。これがウェイクフィールドである。wake には「通夜」という意味があるから地名を直訳したわけだ。浅野訳本は、地名、人物名を日本語風に置き換える。牧師のプリムローズは古室博士、その子供の姉オリヴィアは折葉、妹ソフィアは小宮である。

手元に浅野訳しかなかったので、しばらくは漢訳との比較対照に利用していた。だが、漢訳とは関係のない日本語訳本を使っても、あまり役に立たない。そこで見つけたのが近代デジタルライブラリだ。国立国会図書館がウェブ上で公開している。

植木貞次郎（泰東居士）訳『(家庭教育）園之咲分』前後篇２冊（開新堂1889.8.8、1890.5.10）がある。浅野訳よりも早く出版された。これの「緒言」に次のような説明がついている（傍線省略)。

一此書は英国有名の詩家オリーバー、ゴールドスミス氏の著述にして原名を「ゼ、ヴィカァー、オフ、ウィークフィルド」と云ひ千七百六十六年の出版に係るものなり

一原書は夙く十八世紀の中頃より文学社会の至宝として世に貴はるゝ者にして常に文人詩家の座右を離れざる一大奇書なり盖し其行文の流暢にして文字の艶麗なるは此書の独特と称する所なり

一訳者浅学不文素より原文の万一をも摸写する能はず而して妄りに訳述の労を執りし所以の者は盖し弟妹に益せんと欲してのみ故に訳文極めて卑賤にして只意義の通暁し易きを旨とせり

一頃日諸学校に於て此書を教材に適用するもの多し而して初学の士或は其意義の通し難きに苦むと聞く書肆の需めに依りて校讐の隙なく敢て梓に上す大方の識者幸に訳者の僭越を咎めす校訂の労を吝ますんば幸甚

以上は、英文原書についての簡単な説明になっていることが理解できよう。当時、学校において教材として利用された、と興味深いことが書いてある。

私が植木訳の「緒言」を引用したのには理由がある。「姉妹花」第１回の冒頭にある説明と無関係ではないからだ。

是書為英国哥徳斯密所著原名威克特之僧正 The vicar of wakefield. 一千七百六十六年出版文人詞客争相宝貴今日本学校多仮為課習英語之用其声価可想見惟訳本視原書章節略有変易文字陋劣不足伝達真相　閲者諒焉　本書は英国ゴールドスミスの著作で原名を「ウェイクフィールドの牧師」という。1766年に出版されると文人たちはとても尊んだ。現在、日本の学校では多くがそれを英語学習の教材にしている。その評判を理解することができるだろう。ただ、訳本は、原書の章節をすこしばかり改変している。文章が悪く本来の姿を伝えていないかもしれない。お許し願いたい。

こちらにも、日本の学校が英語教材として使用している、と書いてある。漢訳を掲載した雑誌『教育世界』には、日本人の編集者、翻訳者がいた。だからそのあたりの事情を知っていただろう。というよりも、植木訳の「緒言」をそのまま、省略をしながら漢訳したとわかる。

「姉妹花」

『双鴛侶』

「姉妹花」がもとづいたのは、植木の日本語訳本であると判断してさしつかえない。

2　漢訳「ウェイクフィールドの牧師」

本稿においては、上記漢訳の２種類を紹介する。雑誌に連載された「姉妹花」と単行本で出た『双鴛侶』だ。漢訳名が違うように、訳者も異なる。

○（英）哥徳斯密著「（家庭教育小説）姉妹花」18回

『教育世界』甲辰第１-21期（第69-89号）光緒三十年正月上旬-十一月上旬（1904）

第89号に「附録」がある。無題だが「葛徳斯密事略」とよばれる。私が見ている『教育世界』は、合訂本だ。作品内容によって分類合訂するのは、よくある。連載の「姉妹花」部分を１ヵ所に集めている。全150頁。本漢訳は、前述のように日本語訳『園之咲分』を底本とする。英語→日本語→漢語という経路だ。当時、多く見られた日本語を経由した翻訳のひとつである。「咲分」とは、同じ株に色とりどり

の花が咲くことをいう。牧師の娘ふたりに焦点を当てて英文原作を見れば、咲分といえる。姉妹だから「姉妹花」という漢訳題名になるのも不自然ではない。

雑誌発表の約４年後に単行本が、同じ上海において刊行された。

○（英）格得史密斯著、商務印書館編訳所訳『（義侠小説）双鴛侶』30章

中国商務印書館1908.6（初出未見）。説部叢書第十集第九編、のち、初集第99編1914.4再版。

著者名を戈爾徳斯密斯と表記するものがこれとは別にあるという。本書は、英文原書から直接翻訳されたと思われる。全109頁。第24章がふたつあり、重複は第25章の単純な誤植だ。原書は全32章だが、漢訳は30章しかない。途中で削除した章があるからだ。第29章で主人公の牧師が囚人にむかって説教する部分を省略した。原書第31、32章を漢訳では第30章にまとめている。こちらの題名「双鴛侶」は、牧師の娘が２組の夫婦となるところからきている。「姉妹花」と同じ趣向である。

ふたつともに漢訳者の名前がない。商務印書館編訳所訳とあるのは、買い取り原稿であると一般に考えられている。

翻訳の質をみるために例をあげよう（漢訳の傍線は省略）。英文原作は、 J. BUMPUS, HOLBORN, LONDON, 1819年版を、日本語訳は植木貞次郎訳を引用する（ルビは省略）。浅野訳も参照したい。

…chose my wife as she did her wedding-gown, not for a fine glossy surface, but such qualities as would wear well. p. 1

【浅野】……現在の妻を迎へたのであるが、外見の徒らに立派なものよりは、使用つて徳用といふ筆法でこの婦人を選定した。これは妻が婚礼の晴衣を選んだと同一の旨意から出たものである。1-2頁

容貌よりも健康を重視して結婚した、とは書かない。いわゆる「持って回った」表現だ。浅野訳は、原文通りだといっていい。

だが、植木訳は、違う。「姉妹花」と並べて見よう。

【植木】早くも妻を迎へたり、1頁

【姉妹花】既貿然授室矣。かまわず結婚した。1頁

そっけのない漢訳だといわざるをえない。これでは原文のおもしろさが伝わってこない。しかたがないのだ。漢訳者は英文原書を見ているわけではないからだ。このおもしろくもない翻訳の責任は、植木訳にある。

【双鴛侶】故択妻綦苛。経年許。始有室。妻を選ぶのにはなはだ厳しく、１年ばかりで結婚をした。1頁

味も素っ気もない点では、「姉妹花」とかわらない。

牧師の名前はプリムローズという。彼は、多少の財産を持っていて、自分の教区の人々と親しく近づくことにした。禁酒を勧め、独身者には結婚を勧める。そこでウェイクフィールドではみっつの「ない」が有名になる（第３章)。

so that in a few years it was a common saying, that there were three strange wants at Wakefield－a parson wanting pride, young men wanting wives, and alehouses wanting customers. p. 6

【浅野】之が為めに、数年ならずして、通夜野の土地に三個の「無いもの」尽しか出来た。即ち意張ら無い牧師と、妻が見当ら無い青年と、それから華客の更に無い料理屋。12頁

【植木】其頃の俗話にウィークフィルドに三ッの不足あり未婚の人に傲慢なる者、モーッ花主（とくい）を欲しがる麦酒店なりと云ひ囃し合へり　9頁

日本語訳２種は、原文をよく反映している。ところが漢訳となると、すこし違う。

【姉妹花】其時有俗諺曰。威克特有二短。侮視鰥夫。釀美酒而奪人利。その時ことわざができていうには、ウェイクフィールドにはふたつの短所がある。独身者を蔑視すること、美酒を作って人の利益を奪うもの。4頁

うまい漢訳だとはいえない。だいいち、原文にある「三ない」がふたつに減少している。牧師は若者に結婚を奨励した。だから独身者はいない。これが、原作だ。漢訳ではかろうじて独身者がでてくるからよしとしよう。だが、前の部分で牧師が禁酒を勧めた、という箇所を翻訳しないから（植木訳に禁酒云々がないから責めるこ

とはできないが)、突然、美酒がでてきて意味がわからない。原文に、ことば遊び「三ない」があることも知らないのだから、無理もない。

【双鴛侶】郷人為之語曰。活克斐特（余所居地）有三特色。謂牧師無声勢。酒肆無沽客。不及年者無家室。村人がいうには、ウェイクフィールド（私の居住地）には三特色がある。牧師には威勢がない、酒屋に買い手がいない、未成年者に妻がいない。4頁

「家室」には妻子という意味もある。どちらにせよ、「未成年者に妻（子）がいない」の反対は、成年者は妻帯している、となる。原文を生かして翻訳しようと努力している点で、この部分に関しては、「姉妹花」よりも「双鴛侶」の方に軍配があがる。くりかえすことになるが、「姉妹花」が日本語訳に依拠していることが原因である。

牧師は、ロンドンに保有していた財産を失い、一家はさらに田舎に移住することになった。道中でいくつかの出来事が発生する。人との出会いがある。落ち着いた先で、そこの地主（好色漢)、また都会からきた金持ち（地主とグル）とつきあい、母親は娘たちを上流階級に近づけようとやっきになったり、失敗したり。娘は駆け落ちするし、外国へ出した息子は災難に幾度もあったあげく役者となって牧師と再会する、家が火事にあうなどなど、波乱の物語が展開する。

自尊心と体裁をとりつくろう間に揺れ動く牧師が、ひとり語りしてこまごまと話はつづくのだ。はては牢獄に入れられるし、そこで説教をおこない牢獄生活の改革までも推し進める。最後は、アラビアン・ナイトのハルゥン・アル・ラシッド（というよりも日本の水戸黄門といったほうが理解しやすいか）もどきの人物が、不正を暴いて問題を解決する。正義が勝つのである。

ふたつの漢訳は、大筋をすくい取るというやり方で、翻訳を進める。

「姉妹花」は、日本語訳の章分けをはずして独自に章をつけなおす。一方の「双鴛侶」は、章の数だけはほぼ原作の通りだが、大幅な削除があることは前述した。

原作第６章のほほえましい場面を見てみよう。

牧師一家が地主の訪問を受けることになった。娘たちは顔につける化粧水を作りはじめる。地主に気に入られることにでもなれば将来が変化するかもしれない。牧師は、それを見てにがにがしく思う。

Washes of all kinds I had a natural antipathy to; for I knew that instead of mending the complexion, they spoiled it. I therefore approached my chair by sly degrees to the fire, and grasping the poker, as if it wanted mending, seemingly by accident, overturned the whole composition, and it was too late to begin another. p. 31

【浅野】自分は元来化粧は、一も二もなく嫌である。化粧の為めに顔は決して奇麗にはならず、却て疵がつくからなので。乃で、自分は少しづゝ椅子を火の方に接近させ、火を直してやるやうな風をして、火箸を掴むや否や、粗相の積りで、鍋の中の化粧水をば顛倒してやつた。娘達はモーこれから再び製し直すべき隙はなかつた。67頁

【植木】予は元来化粧を以て自然の美を汚すものと思ひ居たりしかば甚だ之を嫌悪せり、左ばれ今ヂックの私語くを聞きて甚と腹立たしく思ひしかば、ツと立て炉辺に至り火箸の曲りを直さんとするものゝ如き態して不意に娘等が化粧の用意に温め置きたる白粉の薬剤を覆へしたり而して今は已に時刻後れたれば新たに其用意をなすこと能はざりき　46頁

牧師がとった子供じみた行動のひとつである。

ディックというのは、小さい息子の名前だ。娘たちが化粧水を作っている、と牧師に告げにきたのがディックだった。植木訳では、原文の椅子がない。また、火箸を直すフリして、という訳はいかにもそうなりそうだが、それでは炉端に近づく必要がなくなる。ただ、大筋は把握できている。冒頭部分でおもしろい箇所をあっさりと削除してしまったのにくらべれば、上等である。

【姉妹花】予平日深悪脂粉。能汚天然之美。聞垤克言。不禁盛怒。偶立近炉旁。見火箸已曲。擬取而直之。不虞女等所烘鉛粉。竟傾入炉中。顧為時已晩。不及重行準備。彼等亦末如之何矣。私はふだんから紅白粉を深く嫌っている。自然の美しさをそこなうからだ。ディックが告げるのを聞いて、怒りを抑えることができなかった。立って炉端に近づくと火箸が曲がっているのが見えたから、それを直すつもりで、はからずも娘たちがあたためていた鉛白粉を炉のなかに注いでしまった。時すでにおそく、ふたたび準備するわけにもいかず、彼女た

ちはどうしようもなかった。20頁

英文原著から外れた箇所を含んだ日本語訳を、忠実に漢訳していることが理解できる。

【双鴛侶】省略する

なんと、こちらの漢訳は、省略している。こういう箇所がおもしろいという認識がないらしい。

第８章の挿入歌「バラッド」は、両漢訳ともに削除する。後述するが、この部分のみを漢訳する別の作品も出現する。

牧師の娘ふたりがロンドンに行くことになったが、それには金がかかる。そこで所有する馬を売ることにした（第14章）。馬をさんざんけなされて売れる目途が立たなくなったところで、ある教養人に出会う。彼が開陳する論理が、また人を煙にまくのである。

Ay, Sir, the world is in its dotage, and yet the cosmogony or creation of the world has puzzled philosophers of all ages. What a medley of opinions have they not broached upon the creation of the world? Sanchoniathon, Manetho, Berosus, and Ocellus Lucanus, have all attempted it in vain. The latter has these words, *Anarchon ara kai atelutaion to pan;* which imply that all things have neither beginning nor end. p. 74

【浅野】さうさう。世は一般に気抜けの状態に陥つて居るです。兎に角世界創造説は何れの時代の哲学者をも困らせました。彼等は実にこの世界創造説に対して雑多至極の議論を吐いたです。かのサンチヨニアソンと言ひ、マネソーといひ、ベロサスといひ、但しはヲセラス、ルーカナスといひ、一人として成効する所はありません。この最後の人の言葉にアナルチヨン、アラ、カイ、アタルタイヲン、ト、パンとあるが、これは万物始なく又終なしといふことである。154-155頁

【植木】嗚呼世界は実に老耄の域に達したり而して天地開闢世界創造の源理は猶学者を迷はしめて一定の説なし今日に至るまで其説百端一も確実據るべきも

のを見ずサンコニアソン、マ子ソー、バロサス及びオセラス、ルカナス等孰も新説を称へて孰も無益たるを免れず、特にルカナスの如きは万物凡て初めなく又終なき者との説を称へたり　106-107頁

自分が理解できない分だけ相手が尊敬に値する人物だ、と牧師は考えた。つまり、そう思わせるペテン師に遭遇したのだった。

外国語の翻訳でむつかしいのは、こういう固有名詞などが出てきて、「アナルチヨン、アラ……」などとわけのわからない議論を展開する箇所だ。著者は、意図して書いている。話の大筋とは関係がないように見えるところだが、それを無視すると原作のおもしろみがなくなってしまう。

【姉妹花】嗚呼。世界已達於老耄之境矣。而開闢天地創造世界之原理。学者猶迷惑彷徨。岐説百出。桑果尼亜孫瑪奈索巴洛薩奥瑟拉路嘉拏之徒。倶各倡導新説。而要皆無益。且如路嘉拏謂万物無始無終。ああ、世界はすでに老いぼれの境地です。天地開闢世界創造の原理については、学者は迷いさまよい議論百出といったありさま。サンコニアソン、マネソー、バロサス、オセラス、ルカナスらがすべて新説を唱えていますが、みな無益なのです。たとえばルカナスは、万物には始まりも終わりもないといっています。44頁

「アナルチヨン、アラ……」がギリシア語なのかどうか、よくわからない箇所は、拠った日本語訳が無視しているのだから、漢訳者も気づかずに無視することになった。「サンコニアソン」ほかの人名を見てほしい。浅野はそれを「サンチヨニアソン」などと日訳したのに比較すればよくわかる。漢訳は、日訳の使用した漢字を有効利用してその通りの翻訳になっている。

【双鴛侶】然然。世界之状態。複雑離奇。至難方物。其間事物之生長消息。窮古今大哲学家之脳力。不能探其真理。若薩考南星。墨内他。不老直史。及羅懇諾使ママ。犖犖諸大家。粋畢生精力。終究一無所得。羅懇諾史曰。万物無始無終。そうそう、世界の状態は複雑怪奇で識別することはきわめて困難です。事物の生長消息は、昔から今まで大哲学者の能力であっても、その真理を明らかにすることはできません。たとえばサンコニアソン、マネトー、バロサス、および

ルケナスらのきわだった諸大家は、全生涯の精力をかたむけて、ついには何も得ることができませんでした。ルケーナスは、万物には始まりも終わりもないといっています。38頁

こちらの漢訳人名、あるいは使用した言葉から判断するに、先訳である「姉妹花」を参照していないらしい。適当に削除をしているし、この部分に関しては、「姉妹花」も「双鴛侶」も、ほぼ同じ程度の漢訳であると考える。

文中に「ロビンソー・クルーソー」が出てくることをのべて、この項目を終える。

隣家とはりあって家族の肖像画を描かせた顛末が語られる（第16章）。絵の出来映えには、全員が満足した。だが、あまりに大きすぎて、動かすことができない。それをからかった言葉である。

One compared it to Robinson Crusoe's long-boat, too large to be removed; p. 87

【植木】一人はロビンソンクルソーの長き脚船の如く徒らに使用に苦むと云へば　後篇6頁

【姉妹花】有譬之為魯敏孫之長脚船。苦於為用者。これをロビンソンの大ボートにたとえるものがいた。使うのに苦しむというわけだ。53頁

【双鴛侶】省略する

ロビンソン物語は、漢語では「魯濱孫漂流記」と翻訳するのが一般的だ。しかも、その漢訳は「姉妹花」よりも時間的に早く発表されている。いうまでもなく、漢語に音訳すれば「魯濱孫」が原音に近い。それに対して「姉妹花」の漢訳「魯敏孫」は、どうか。どう見ても、日本語だ。漢訳者の名前は、ない。だが、このような箇所を目にすると、日本人が漢訳したのではないかと疑うのだ。拠った原書が日本語訳本で、しかもカタカナ表記である。それを漢訳する時、日本での翻訳例を思い浮かべるだろう。

「ウェイクフィールドの牧師」については、以上で終わる。

伍光建訳『維克菲牧師伝』が、商務印書館から1930-40年代に版を重ねて発行されている。のちに、人民文学出版社（1958.9）からも出ているとものの本にある。また、唐長儒訳述『威克菲牧師伝』が上海・啓明書局（1941）から刊行されているというが、いずれも未見。参考までにあげた。

「空未能空」

「ウェイクフィールドの牧師」から、ある部分を抜き出して漢訳しているものがある。そんなことが可能か、と思われることだろう。それが、あるのだ。

鉄樵（惲樹珏）「空未能空」（『小説月報』第３巻第９号1912.12.25／『説林』第14集1914.?*[2]／『晨鐘』1917.4.28-30。未見）である。

「本威克斐牧師伝中 The Hermit 篇」と書いてある。hermit とは世捨て人、隠者を意味する。該当するのは、第８章に挿入される「バラッド A BALLAD.」だ。原文は詩歌だが、漢訳では散文に書き換えた。

この「バラッド」は、ゴールドスミスの作ではないという。別のところから引用したらしい。

失恋し絶望を胸に抱いた若者が、森のなかで隠者に救われる。話を聞いて、みればその若者は、姿をやつした娘であった。隠者とは、まさにその裕福な娘との恋に破れた青年だったのだ。感動の再会場面を引用しよう。

“Forbid it, Heav'n,” the hermit cried,
And clasp'd her to his breast.
The wondering fair one turn'd to chide,
'Twas Edwin's self that prest!
“Turn, Angelina, ever dear,
My charmer, turn to see,
Thy own, thy long lost Edwin here,
Restor'd to love and thee! p. 43

英文の押韻（abab）は、日本語には翻訳できない。詩歌らしくことばを連ねるだけだ。

【植木】「天帝許し賜はれ」と、言葉と共に処女をば、抱き寄すれば驚きて、振り放たんと振り向けば、是なん焦るゝエドウインにて、静かに口を開く様、「吾最愛のアンゲリア、心静めて思ほへや、吾は死したるエドウインぞ、茲に汝を愛せんと、蘇生れるを思ほへや　63頁

【浅野】「やよ早まるな」と大喝一声、／隠者はひしとて女を胸にかき抱きぬ。乙女は嗷驚打ち振りむけば、／隠者と見しはいとしのエドウイン。90頁

「わがいとしのアンヂエリアよ、／わが恋人よ此方を向きて、

絶へて久しきエドウインの姿を見ずや。／われは今より御身のものぞ、恋の奴ぞ。91頁

漢訳では、形を大きくくずしてしまう。

道人躍然起。以両手摟女郎於懐曰。吾摯愛之安琪児乎。汝盍挙首一審視。所謂生死永訣之愛徳温。即我是也。仙人は、はねるように起きあがり、娘を両手で胸に抱いていった。私の愛するアンジェリアよ。頭をあげて見てはくれまいか。生きるか死んだか永久の別れをしたエドウィンは、我なるぞ。

漢訳は、大筋を簡潔な文言になおしたということがいえよう。

3　その他の漢訳ゴールドスミス

中華民国になってからしばらくしてのことだ。大部な外国短篇小説の翻訳集が出版された。周瘦鵑訳『欧美名家短篇小説叢刊』上中下３冊である。中国では、魯迅が称賛した、というので有名だ*3。該書上冊にゴールドスミスの作品が漢訳収録されている。

○（英）奥利仏古爾斯密著　周瘦鵑訳「貪」

周瘦鵑訳『欧美名家短篇小説叢刊』上海・中華書局1917.3/1931.8四版。上冊（巻）13-17頁

冒頭に「奥利仏古爾斯密小伝」約２頁強を置いて作者を紹介する。文言による翻訳そのものは、小伝よりも短い。

原名“Whang, The Miller”と表示はするが、作品そのものについての説明は、ない。だが、『世界市民 The Citizen of the World』（1762）*4に収録されたなかのひとつであることをつきとめた。

『世界市民』は、新聞に発表した随筆をまとめたものだ。その発行は1762年だか

ら「ウェイクフィールドの牧師」の1766年よりも早い。中国人が友人にあてた手紙という体裁だ。全部で123篇という数からわかるように、まさに短篇集である。

奇妙だというのは、主人公の中国人がリエン・チ・アルタンギ Lien Chi Altangi という名前だからだ。リエン・チまでなら中国人の名前らしく見える。一説に「李安済」を当てる研究者もいるらしい*5。しかし、リエン・チの区切りから李安済を出すのは苦しい。後のアルタンギというのがありえない。当時のイギリスでは、このような東洋趣味が読者に歓迎されたのだろう。

漢訳は、第70信の後半部分にすぎない。目次に「Fortune proved not to be blind. The story of the avaricious miller.」とあるが、翻訳では無視されている。貪欲な粉引き Whang の物語だ。

貧しいがゆえに、巨万の冨を得る夢に取り憑かれてしまった粉引きだった。黄金とダイヤモンドがひき臼の下に埋まっていると夢に見た彼は、その下を掘り起こした。生きる唯一の術であるそのひき臼は、自分が掘った穴の中に陥没してしまった。

ゴールドスミスは、中国人のつもりで Whang を登場させている。漢字を当てるとすれば、「王」あたりだろう。だが、周瘦鵑は、それを「茀盎」と表記した。これでは、西洋人のように見える。もっとも、ゴールドスミスの原作そのものが、中国人である必然性のない物語であった。周瘦鵑が行なった翻訳でいいような気がする。

最後につけ加える。梁遇春訳『追赶自己的帽子――英国小品文経典三十篇』（海口・南海出版公司1998.2）がある。『英国小品文選』（上海・開明書店1929）および『小品文選』（上海・北新書局1930）から選択して１冊にまとめたと説明される。これにゴールドスミスの作品がふたつ収録されている。 ㊢

【注】

１）柳和城「孫毓修與《歐美小説叢談》」『清末小説から』第73号2004.4.1／『出版史料』2004年第３期（新総第11期）2004.9.25。『清末小説から』第73号掲載と同文。

２）架蔵の『説林』第14集は、奥付部分が破損している。発行月は、たぶん７月か８月だ。

３）『欧美名家短篇小説叢刊』は、「叢刻」が初版で再版時に「叢刊」と改題した

らしい。第４版は、表紙と奥付が「叢刊」で、本文では「叢刻」となっている。陳夢熊は、誤植だと書いているが、はたしてどうか。陳夢熊「魯迅《欧美名家短篇小説叢刻》評語的考説」『《魯迅全集》中的人和事――魯迅佚文佚事考釈』上海社会科学院出版社2004.8。57-62頁

４）私が見ているのは、*THE CITIZEN OF THE WORLD* GEORGE ROUTLEDGE & SONS, Limited LONDON （刊年不記）である。

５）劉炳善「哥爾斯密斯」劉炳善訳『倫敦的叫売声』北京・生活・読書・新知三聯書店1997.11初出未見／2003.9北京第2次印刷。69頁

（さわもと　きょうこ）

『清末小説から』第80号　2006.1.1

『漢訳東西洋文学作品編目』と
その編者　……樽本照雄
晩清小説作者掃描（伍）…武　禧
『新編増補清末民初小説目録』の
『小説海』掲載作品正誤・補
……杜　筆恩
商務印書館の火災（１）……沢本香子
漢訳アラビアン・ナイト（14）
……樽本照雄

『清末小説から』第81号　2006.4.1

美華書館名称考（１）……樽本照雄
晩清小説作者掃描（陸）…武　禧
商務印書館の火災（２）……沢本香子
漢訳アラビアン・ナイト（15）
……樽本照雄
潘建国「近代小説的研究現状与
学術空間」を読む……樽本照雄